



学校だよ



青 藍

創立 147 年

瀬戸内町立篠川小中学校

令和7年12月24日(水)

12月

「一日一生」

八木 修一

朝夕の冷え込みに冬の訪れを感じる季節になりました。保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解と温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。学校行事の多い2学期を大きな事故や怪我等もなく、無事終えることができました。校区合同大運動会、学習発表会、瀬戸内町子ども島口・伝統芸能大会、持久走大会、さらに中学生は弁論大会・英語ショートスピーチコンテストなどの行事を通して、それぞれが自分で決めた目標に向かって粘り強く取り組み、多くの経験を重ね、心も体も大きく成長しました。

法語(ほうご)とは仏教の教えをわかりやすく、心に届く形で表した言葉で、広く寺院や学校等で語られる人の生き方や心構えを示すものことです。「一日一生(いちにちいっしょう)」という法語を紹介します。この言葉は、「今日一日を、一生懸命に大切に生きることが、一生を大切に生きることに繋がる」という意味です。子どもたちにとっての一日は、

- ・ あいさつをする
- ・ 友達にやさしい言葉をかける
- ・ 苦手なことにも少し挑戦してみる



その一つ一つの積み重ねです。どんな小さなことでも、「今日を大切に過ごす」ことが、確かな成長につながっていきます。これまでの自分を振り返り、「できるようになったこと」「がんばったこと」に目を向ける大切な時期です。学校では、子どもたちが自分自身の歩みを認め、自信をもって次の学期へ進めるよう支えてまいります。さて、これから2週間の冬休みに入ります。冬休みの課題に計画的に取り組むことのほかに、家族の一員としての役割もきっちり果たし、充実した冬休みにしてほしいと思います。

年末年始、家族と過ごす時間が、子どもたちの心を温かく育むひとときとなることを願っています。これからも各家庭・地域の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。そして、どうぞ皆様もよいお年をお迎えください。



1月の行事予定

4日(日) 瀬戸内町二十歳の祝い

8日(木) 第3学期始業式

身体測定・視力検査
いじめ問題を考える週間(~14日)

あいさつ運動(~13日)
9日(金) 実力テスト(中3) かけはし号

13日(火) 鹿児島学力・学習状況調査
(小5 ~14日)

15日(木) 鹿児島学力・学習状況調査
(中1 ~16日)

16日(金) 授業参観(百人一首大会)
学級PTA(中3)

17日(土) 土曜授業 書初め(小) 英検

19日(月) 学校給食週間(~23日)

20日(火) 全校朝会 島唄・三味線教室
食に関する授業(中)

鹿児島学力・学習状況調査
(中2 ~21日)

21日(水) 保育所生との交流給食

22日(木) 三校集合学習(篠川小)

23日(金) ALT来校日 漢字検定
スクールカウンセラー来校日(小)

かけはし号

27日(火) 町学校保健・安全研究大会

29日(木) スクールカウンセラー来校日(中)

委員会・代表委員会



ハンセン病講話 12月3日(水)

中学生は、総合的な学習の時間に奄美市在住の赤塚興一さんの講話を聴きました。小学3年の時、父親がハンセン病の療養所に強制収容され、家族がハンセン病であることで壮絶な差別を受けます。

「(小学校の頃)友達から、『コジキ』と言われたんですよ。その頃、島ではハンセン病のことをコジキって言いおったんです。同窓生がほとんど遊んでくられず、それが1つの私のトラウマみたいな形になって、ずーっと引っ張って……」

それから、赤塚さんは父親のことを隠すようにして生きてきました。赤塚さんは高校卒業後、県の職員を経て市議会議員になりますが、父の存在は隠していました。正しい知識をもっていなかったことから、実の父親を差別し、悲しみの底に突き落としてしまった後悔と父親に許しを請いたいという思いから、当初から実名を名乗って遺族訴訟の先頭に立ち、ついに、2001年に国の隔離政策の誤りを認める判決が出されました。差別された経験、差別してしまった経験をもとにした講話により、差別の恐ろしさ、愚かさ、そしてまだなくなっていないことを実感しました。



SOSの受け止め方教室 12月4日(木)

1学期に「SOSの出し方」について、今回は「SOSの受け止め方」についてスクールカウンセラーの慶先生に教えていただきました。SOSの出し方や受け止め方の教育が重視されるようになった背景は、子どもを取り巻く社会的変化と深刻な課題にあります。近年、子どもたちは

- 悩みを言葉にする力や機会の不足
- 「迷惑をかけてはいけない」「弱音は恥ずかしい」という思い込み
- SNS等による孤立感の深まり

などにより、困っていても助けを求められないまま抱え込む傾向にあります。その結果、不登校、いじめの深刻化、自傷行為、さらには自死に至る事案が「事前に気づけなかった」形で起こる現実があります。

SOSの出し方や受け止め方の教育は子どもの命と尊厳を守るため、「困ったときは一人で抱え込まなくてよい」「誰かに頼ってよい」ということを学校に根付かせるための教育です。



受け止め方のポイント「きょうしつ」

- ① ……気づく
- ② ……寄り添う
- ③ ……受け止める
- ④ ……信頼できる大人に
- ⑤ ……つなげる

持久走大会 12月13日(土)

天気と気温が心配されましたが、校内持久走大会を行いました。持久走は、誰かと比べる競争ではありません。「自分との勝負」です。スタートの勢いよりも、苦しくなってからの一歩が大切です。呼吸が苦しくなり、足が重くなってくるあの瞬間こそ「やめたい」という気持ちに打ち勝てるかどうかを試されています。子どもたちの走りを見ていましたが、ゴールまであきらめない「強さ」を身に付けたと思いました。本当にみんながんばりました。保護者や地域の方々の子どもたちへの声援・拍手などが大きな励みとなりました。また、安全指導もしていただき、ありがとうございました。

